

山口県上関祝島沖で確認された鯨類について

田中 浩・坂本 誠

「山口県の自然」第79号（2019年3月）別刷

山 口 県 立 山 口 博 物 館

山口県上関祝島沖で確認された鯨類について

田中 浩¹⁾・坂本 誠²⁾

1. はじめに

本州の西端に位置する山口県は、西側と北側を日本海に、南側を瀬戸内海に面している。鯨類とのかかわりは深く、捕鯨の歴史から、近年の山口県周辺の鯨類の動向については、文献、ストランディングレコード、目視調査の結果等から詳しくまとめられている(河野 2008; 石川・渡邊2014; 石川・渡邊 2018)。しかしながら、大型の鯨類に遭遇する機会はほとんどない(石川・渡邊2018)。坂本が、瀬戸内海で2018年3月25日、船長として航行中の船上から鯨類を確認し、デジタルカメラにて、300枚以上の鯨類の体の一部を撮影した。撮影した写真をもとに種の特定を試みたので報告する。

2. 方法

石川・渡邊(2018)による出現情報をもとに、山口県の近海に現れる可能性のある大型の鯨類は、ザトウクジラ *Megaptera novaeangliae*、ニタリクジラ *Balaenoptera brydei*、ツノシマクジラ *Balaenoptera omurai*、ミンククジラ *Balaenoptera acutorostrata* の4種であり、これらの特性を国立科学博物館(2019)をもとに検証し、撮影した写真の中から特定できる部位がわかる写真を選定した。

3. 結果と考察

撮影された場所は、瀬戸内海の山口県熊毛郡上関町祝島沖 北緯33.741-33.743度、東経131.932-131.934の地点であった(図1)。撮影日時は、2018年3月25日11:53~12:11で、撮影数は315カット、写真には、背びれ、尾柄、尾びれなど個体の一部が撮影されていたが、吻部や胸びれなどは撮影できなかった。背びれ、尾柄、尾びれなどが鮮明に撮影された68カット使用し、種の特定を行った。

体色は黒色で、背びれは大きく発達していなかった(図2・3)。こぶの上に背びれがあった(図3・4)。尾びれは大きく、辺縁部はぎざぎざしていた(図5-7; 図9-11)。これらの特徴はザトウクジラに一致していることから、この大型鯨類はザトウクジラであると考えられた。

ザトウクジラは、20世紀に始まる動力船と捕鯨砲を用いる近代捕鯨により激減し、日本近海ではほとんど確認できなくなったが、近年沖縄付近や小笠原周辺で繁殖がみられ、ストランディング個体も増加している(石川・渡邊 2018)。山口県の瀬戸内海側では、2009年3月31日と2018年1月27日に目撃されており、豊後水道あるいは紀伊水道を経由し、進入してきたと考えられる(石川・渡邊 2018)。

1) TANAKA, Hiroshi 山口県立山口博物館(動物)(〒753-0073 山口市春日町8-2) Email:h-tanaka43@nifty.com

2) SAKAMOTO, Makoto



図1. 山口県熊毛郡上関町祝島沖の大型鯨類の目撃地点



図2. 鯨類の背びれと背側



図3. 背びれと尾柄



図4. 背びれと尾柄

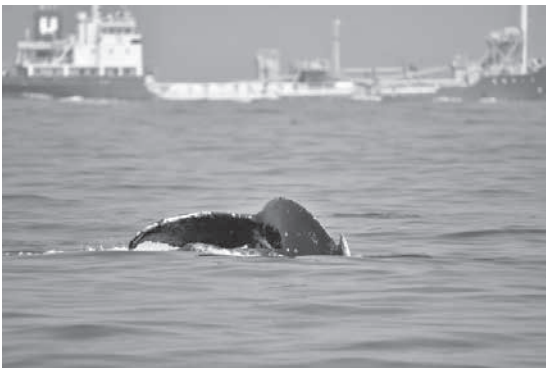


図5. 尾柄と尾びれの一部



図6. 尾柄と尾びれ



図7. 尾びれ



図8. 後方からの背びれと尾柄



図9. 後方からの尾柄



図10. 後方からの尾びれ



図11. 尾びれ先端

4. 引用文献

- 河野光久. 2008. 近年の山口県日本海沿岸に出現した鯨類. Bull.Yamaguchi Pref. Fish. Res. Ctr., 6 : 75-78.
- 石川創・渡邊俊輝. 2014. 山口県鯨類目録. 下関鯨類研究報告., 2 : 1-14.
- 石川創・渡邊俊輝. 2018. 改訂版：山口県鯨類目録. 下関鯨類研究報告., 6 : 1-17.
- 国立科学博物館. 2019. 海棲哺乳類図鑑. https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/pictorial_book/index.html (2019年1月29日確認)